

キク(スプレーギク)
Dendranthema grandiflora
 (キク科)

小ギクより頭花数が少なく、花が大きい。花束、アレンジに多く利用される。近年育種が進み、豊富な花色の他、デージー咲きやアネモネ咲きの一重、八重咲き、ポンポン咲きなどがあるほか、花卉の形も舌状、管状、さじ状など様々である。小ギクより水あげが悪く、生け花中に葉が萎れやすい。日持ち終了の主な症状は、花卉の萎凋と葉の萎れ、黄変である。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
花序の開花・老化	開花の見込める花序のうち、 A: 先端の花序が開花する B: 約半数が開花する C: 全花が開花し、一部で老化が始まる D: 1/3の開花花序が老化する	花序の老化の判定は、舌状花の褐変・萎れ、筒状花の変色・褐変によって判定する
花卉(舌状花)の褐変	個々の花序について、 A: 発生なし C: 花卉先端が褐変する D: 花卉面積の1/3が褐変する	灰色かび病が発生しても褐変する
花卉(舌状花)の萎れ	個々の花序について、触ってみて、 A: 張りがある B: やや軟となる C: 軟らかくなる D: 軟らかくなり、萎れる(垂れる)	
筒状花の変色・褐変	個々の花序について、 A: 発生なし B: やや変色する C: 激しく変色する D: 褐変する	八重の品種では筒状花が露出(露心)しない場合があり、そのような場合には測定対象外とする
葉の萎れ	触ってみて、A: 張りがある、B: やや軟となる、視覚的に、 C: 萎れるが、切り戻すと回復する、D: 萎れて垂れ下がりが、切り戻しても回復しない	萎れが激しく起こると花首も垂れる
茎葉の黄変・褐変	A: 黄変・褐変の発生なし(緑色) B: 下位葉に黄変が発生する C: 中位より上の茎葉に黄変・褐変の発生が始まる D: 茎葉の1/2以上に黄変が発生し、下葉が枯れ上がる	黄変の発生には品種間差が大きい。花卉に灰色カビ病が発生すると、D: 花首が褐変することがある
その他	病虫害、花卉のしみ、茎基部の腐り、下位節での開花の見込めない蕾の発達、D: 落弁など	ダニの発生に注意する。後処理剤を用いた場合には茎の腐りは発生しない

2) 留意点

下葉は十分に取り除いて、いけ水につからないようにする。
 乾式輸送後の強く萎れた切り花は、あらかじめ水で水あげを行った後、後処理剤の溶液に移して品質評価を開始する。
 多湿下で灰色かび病が発生しやすい。

3) 開花



4) チェック項目

花の老化



葉の老化

